

県史収集資料 一覧

■本リストは、県史収集資料のうち、当館における整理(目録作成・所蔵者の公開承諾など)が終了し、閲覧が可能となった文書群である。

■本リスト掲載の文書群の中でも、個人の権利や利益を侵害するおそれがあると判断された文書は閲覧を制限する場合がある。

■「地区」とは、文書群を文書内容に則して、下記に示す通り、地区別に分けたものである。

- ・千葉地区(千葉市、習志野市、市原市、八千代市に関する内容を含む文書群)
- ・東葛飾地区(市川市、船橋市、松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市、浦安市に関する内容を含む文書群)
- ・印旛地区(佐倉市、成田市、四街道市、八街市、印西市、富里市、印旛郡に関する内容を含む文書群)
- ・香取地区(香取市、香取郡に関する内容を含む文書群)
- ・海匠地区(銚子市、旭市、匝瑳市に関する内容を含む文書群)
- ・山武地区(東金市、山武市、山武郡に関する内容を含む文書群)
- ・長生地区(茂原市、長生郡に関する内容を含む文書群)
- ・夷隅地区(勝浦市、いすみ市、夷隅郡に関する内容を含む文書群)
- ・安房地区(館山市、鴨川市、南房総市、安房郡に関する内容を含む文書群)
- ・君津地区(木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市に関する内容を含む文書群)
- ・県内地区(上記10地区のうち複数にまたがる内容を含む文書群)
- ・県外地区(千葉県以外の地域に関する内容を含む文書群)

2024/4/1 現在

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世01	香取旧大禰宜家文書	488	香取	香取社の次官にあたる大禰宜を世襲で務めた同家に伝来する文書群。内容は、平安時代末から鎌倉時代にかけての譲状類、社領・造営関係や撰閑家、鎌倉幕府、鎌倉府、千葉氏や国分氏などからの受領文書類などである。	コピー・撮影不可
(財)中世02	東洋文庫所蔵香取田所文書	92	香取	香取社の神宮、三奉行の一家にあたる田所に伝来した文書群である。内容は、田所職と私領の相伝、田所職の職務に基づく祭礼神事などの文書、後醍醐天皇の建武政権による徳政令関係の文書などである。	コピー・撮影不可
(財)中世03	高野山西門院文書	137	県外	高野山金剛峯寺の一支院である西門院に伝存する文書群である。戦国時代に安房里見氏と師壇関係を結んだ関係から、里見氏(義堯～忠義)やその家臣たち、小弓公方足利氏、下総原氏、上総武田氏ら戦国大名・国衆や豊臣政権お奉行増田長盛の書状などが多く見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世04	東京都立図書館所蔵『下総崎房秋葉孫兵衛旧蔵模写文書集』	339	県外	19世紀中頃に下総国崎房村(茨城県常総市)の秋葉義之が、下総国結城郡を中心に、千葉郡、葛飾郡、猿島郡の神社や結城氏などに仕えた旧家臣家に伝来した中世から近世初期の文書を模写したもので、原文書が失われたものも多く含まれている。	コピー・撮影不可
(財)中世05	香取神宮文書	131	香取	下総国一宮であった香取神宮に所蔵されている文書群で、明治時代に大宮司家・大禰宜家・分飯司家・源太祝家の神官各家から納入された「本所古文書」5巻と、「本所古文書」を含む68点の文書写構成された「香取神宮古文書写」4巻よりなる。内容としては、源頼朝、足利尊氏の寄進状や造営関係の文書類などが見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世06	香取神宮所蔵香取旧録司代家文書	168	香取	香取社の神官家で、三奉行の筆頭録司代職を務め、社務の管理に携わった旧録司代家に伝来した文書群である。内容としては、室町～戦国時代における検注取帳(土地帳簿)類が多数見られる。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世07	香取神宮所蔵香取旧要害家文書	142	香取	香取社の神官家で、檢杖の職を務めた旧要害家に伝来した文書群である。要害家は蔵本として高利貸しを営んだことから、内容として、土地・屋敷の売却や借金証文(売券・借用状)が多く見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世08	香取神宮所蔵香取旧源太祝家文書	182	香取	香取社の神官家である旧源太祝家に伝来した文書群である。内容は、近世文書が多く、特に香取社の所領や運営に関する、江戸幕府との関係文書類が多く見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世09	中山法華経寺文書	150	東葛飾	鎌倉時代後期に富木常忍(日常)が開いた法花事が、戦国時代に本妙寺と合体して成立した中山法華経事に伝来した文書群で、歴代貫首の置文・讓状、千葉氏ら外護者からの寺領の寄進状類や古河公方足利氏、戦国大名北条氏からの受給文書が見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世10	清宮家文書	269	県内	清宮秀堅編さんの下総国を対象とした地誌『下総旧事』12冊、常総地域所在の古文書を収集・編さんした『下総古文書類』や『古文書』、調査・編さん過程で収集した『千学集』、『本土寺過去帳』、『井田家文書』の筆写資料。	
(財)中世11	妙本寺文書	453	安房	日蓮宗富士門流の古刹妙本寺に伝来した文書群で、日蓮、開祖日興らの歴代住持、妙本寺末内部の寺院文書や聖教類と、戦国大名里見氏や北条氏、徳川将軍家からの寺領地などの保証状、書状、制札・禁制などの受領文書などが見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世12	香取旧案主家文書	352	香取	香取神社の神官、三奉行の一家にあたる案主家に伝来した文書群で、案主家相伝の讓状や売券、香取神領の土地帳簿など、文書保管という職務との関わりから土地証文・帳簿類が多い。	コピー・撮影不可
(財)中世13	秋田県公文書館所蔵秋田藩家蔵文書	3985	県外	元禄年間から始まった秋田藩修史事業に関わり、佐竹氏および家臣達の家伝文書を臨写して編さんした資料集で、全61冊の構成。書写された文書の内容は、常陸在国時よりの佐竹氏や同家臣の活動、中世～近世初期の関東・東北地方の政治・社会状況に関わる書状や知行宛行状ほか証書類などがある。	
(財)中世14	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『古文書(記録御用所本)』	2401	県外	近世後期に、幕府が編さんした旗本の家伝文書集(全13冊)。収集文書は、主として戦国～江戸時代初期の文書で構成。また江戸時代初期の旗本の房総における知行とその地名が確認できる。	
(財)中世15	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『千学集抜粹』	1	県内	室町時代中頃より北斗山金剛授寺尊光院(現 千葉神社)で作成された『千学集』原本を、江戸時代に書き抜き・編集したもので、国立公文書館内閣所蔵文庫本は明治時代に千葉県で筆写されたものである。尊光院や戦国時代に旦那であった千葉氏について、貴重な情報を提供する。	
(財)中世16	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『里見家永正元龜年中書札留抜書』	1	県外	房総の戦国大名里見氏の古河公方足利氏・上杉氏・小田原北条氏など東国諸勢力への書式作法(書札札)、文案などを集成した儀礼書である。現在、写本が国立公文書館内閣文庫に所蔵されている。	
(財)中世17	国立国会図書館所蔵『逸見文書』	15	県外	近世後期に、謄写・編纂された喜連川藩の家臣であった逸見氏の家伝文書で、現在は国立国会図書館の所蔵。逸見氏は戦国時代には、上総国を拠点に小弓足利氏の重臣としてあり、本資料集には小弓公方当主との関係に関する文書のほか、古河公方家・小田原北条氏・扇谷上杉氏・常陸小田氏・甲斐武田氏との外交に関する文書が見られる。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世18	国立国会図書館所蔵『里見叢書』	12	県外	江戸時代に、安房里見氏の末裔を称した越前鯖江藩士里見氏により安房里見氏顕彰のため編纂された書物類で、現在は国立国会図書館所蔵となっている。内容は家記、歴代誕生記、歴代霊名籍ほか雑多な記録で構成される。	コピー・撮影不可
(財)中世19	香取神宮所蔵『古案』	2157	県外	香取神宮が所蔵する主に鎌倉時代からの各地に伝来した文書、特に足利将軍、戦国大名北条氏・武田氏・上杉氏・毛利氏や織田信長・豊臣秀吉・徳川家康の天下人たちの書状や知行安堵・宛行に関する証文などを多く収集し、編纂した文書集である。書写されたこれらの文書のなかには、現在は原文書が伝来していないものも含まれている。	コピー・撮影不可
(財)中世20	定善寺文書	121	県外	宮崎県日向市の日蓮正宗寺院の定善寺に伝来した文書である。定善寺は、安房妙本寺の寺祖日郷の弟子薩摩阿闍梨日叡によって開かれ、安房妙本寺の日向末寺支配の中核寺院としてあった。このため伝来する文書には同寺のみでなく、安房妙本寺などの関連寺院のものが多く含まれ、そのなかには日我による『妙本寺年中行事』や『当門徒前後案内置文』などが見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世21	浄光院文書	13	東葛飾	法華経寺の神主を補佐する僧を輩出する四院家の一つ、浄光院に伝来した文書群である。内容としては、法華経寺に関わる訴訟の具書案、千葉胤継による寄進状、日胤・胤経・日戴たちの置文・讓状・寄進状、浄光院への定書などが見られる。	コピー・撮影不可
(財)中世22	国立歴史民俗博物館所蔵文書	54	県外	国立歴史民俗博物館が収集した文書群である。『千葉県の歴史』資料編中世5(県外文書2記録典籍)を作成にするにあたり、千葉県関係として鎌倉時代以来播磨国揖保庄を支配した越前島津家伝来の越前島津家文書より文和4(1355)年2月25日付足利尊氏近習馬廻衆一揆契状、田中穰氏旧蔵典籍古文書より六条八幡宮造宮注文、広橋家旧蔵記録文書典籍類より広橋経光の日記『経光卿記』、同兼仲の日記『兼仲卿記』の紙背文書と『兼仲卿記』の該当記事を収集した。	コピー・撮影不可
(財)中世23	香取神宮所蔵旧大宮司家文書	7	香取	旧大宮司家文書は、下総国一宮香取社の大宮司職に引き継がれた文書群である。大宮司職は、香取社の長官の職である。本文書群は、現在香取神宮に所蔵されている。内容としては、香取社の神主(大宮司)職の任免にかかわるものや香取社の造営関係のものがみられる。	コピー・撮影不可
(財)中世24	『香取大宮司文書(秋葉孫兵衛本)』	49	香取	香取大宮司家文書は、下総国一宮香取社の大宮司職に引き継がれた文書群である。大宮司職は、香取社の長官の職である。秋葉孫兵衛本『香取大宮司文書』は、香取大宮司文書を下総国崎房村(茨城県常総市)の秋葉義之が模写したものであり、上下2冊からなる。現在は、香取神宮に所蔵されている。内容としては、香取社神宮(大宮司)職の任免・香取社の造営・所領の寄進といったものがみられる。	コピー・撮影不可
(財)中世25	船橋市西図書館所蔵文書	4	東葛飾	かつて香取神宮の神官家として、社務の管理に携わった録司代家に伝来した文書の一部で、現在は船橋市西図書館が所蔵している。内容としては、応永6(1399)年5月に大宮司兼大禰宣大中臣長房のもと作成された香取神宮領の田地・畠地の台帳である検田取帳・神畠検注帳がある。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世26	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『船橋社文書』	25	東葛飾	意富比神社(船橋大神宮)に伝来した文書を、弘化4(1847)年7月に穂積積年が模写した文書集で、現在は国立公文書館内閣文庫所蔵となっている。船橋大神宮所蔵の中世文書に関しては、戊辰戦争の兵火により多くを喪失しているため、現在は本文書集などからしか知ることができない。内容としては、中世の船橋大神宮や周辺地域、戦国時代に同地域を支配した地域領主(国衆)高城氏との関係などについての資料が見られる。	
(財)中世27	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『船橋大神宮旧記』	1	東葛飾	船橋大神宮の祭神や縁起に関し、宝暦5(1755)年正月に神主富秀胤が記した編纂物である。本資料は弘化4(1847)年7月に書写されたもので、現在は国立公文書館内閣文庫所蔵となっている。	
(財)中世28	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『諸国文書』	24	県外	江戸時代に、伊豆国三島社神主や京都本法寺神主など各地の所蔵文書を収集し、編纂した文書集で、現在は国立公文書館内閣文庫所蔵となっている。房総関係としては、上総国高師氏所蔵文書や下総国総寧寺文書があり、下総国総寧寺文書のなかには現存していない文書も見られる。	
(財)中世29	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『諸氏家蔵文書』	9	県外	江戸時代に小畑氏や金子氏など各家の所蔵文書を収集し、編纂した文書集で、現在は国立公文書館内閣文庫所蔵となっている。収録された文書には、現在は伝来が確認できないものが多い。戦国時代に下総国関宿城(野田市)を拠点とした地域領主(国衆)築田氏が発給した文書が見られる。	
(財)中世30	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『武州文書』	1438	県外	『武州文書』は、『新編武蔵風土記稿』の編修資料として、武蔵国内の寺社や個人の所持する古文書を模写した古文書集である。『新編武蔵風土記稿』は、昌平坂学門所地誌調所における諸国の地誌編修のなかで編纂されたものである。『新編武蔵風土記稿』は、文化7(1810)年に稿を起し、文政11(1828)年に稿が終了、天保元(1830)年幕府に献上された。『武州文書』もこの文化7年から天保元年の頃に成立したと考えられている。『武州文書』のなかには、房総関係の中世史料も確認される。『武州文書』は、現在国立公文書館内閣文庫の所蔵となっている。	
(財)中世31	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『相州文庫』	1492	県外	江戸幕府が天保年間(1830~44)に『新編相模国風土記稿』を編集するに際し、相模国内の寺社や個人が所持する古文書を収集し、模写して作成された史料集である。現在は国立公文書館内閣文庫所蔵となっている。このうち『千葉県歴史』資料編中世を作成するにあたり、房総関係の中世史料が見られる、愛甲・三浦・洵綾・鎌倉・高座各郡を収集した。	
(財)中世32	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『武州埼玉郡村民蔵文書』	34	県外	武蔵国埼玉郡南大桑・向古河・南河原の3村(埼玉県加須市・行田市)の村民が所蔵する文書を収集し、編纂した文書集である。徳川家達の献本として、現在は国立公文書館内閣文庫の所蔵となっている。所載されている文書群のうち南大桑村名主の文左衛門家文書は、安房国を本国とする戦国大名里見氏とその保護下にある小弓公方足利氏(のち喜連川足利氏)の双方に仕えた、重臣の岡本氏の家伝文書で構成されている。その内容としては、里見氏による権益保証、小弓公方足利氏(のち喜連川足利氏)による書状類、甲斐武田氏や北関東大名・国衆との外交活動に関する書状などがあげられる。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世33	国立公文書館(内閣文庫)所蔵『田制用書全』	7	県外	本資料には、中世・近世の田畠の検注や検地に関する文書が収められている。房総関係では、香取録司代家文書の写である香取神領の田畠検注取帳がある。編者について詳細は不明であるが、水戸藩・土浦藩の検地や増徴政策等に関与した長島尉信や関宿藩の治水事業に従事した船橋随庵が関係すると推測される。本資料は写であるものの、原本にはない注記が付されており、注目される。	
(財)中世34	東京大学史料編纂所所蔵『香取大宮司家文書(和学講談所本)』	71	香取	本資料は、江戸時代後期に設立された学問所和学講談所の調査で模写された香取社大宮司家の文書である。和学講談所の調査は、文化12(1815)年からはじめられた。香取大宮司家文書は、神主(大宮司)職任免や香取社の造営に関わる文書がみられる。香取大宮司家文書は、原文書が確認されないものも多く、本資料は写であるが、貴重である。現在は、四巻の巻数に表装され、東京大学史料編纂所で所蔵されている。なお、本文書群は、『千葉県歴史資料編』中世2(県内文書1)にすべて活字化されている(目録「県史」項目参照)。	
(財)中世35	東京大学史料編纂所所蔵『千葉系図(神代本)』	1	県内	本資料は、肥前国小(お)城(ぎ)郡晴(はる)気(け)城主であった千葉胤頼相伝とされる系図である。千葉胤頼の系統が絶えたとき、神(くま)代(しろ)家に本系図が譲り渡されたことから、神代本「千葉系図」と呼ぶ。本資料は明治期に写されたものだが、系図自体は13世紀ごろに作成されたものと考えられている。原蔵者は佐賀県小城郡北山村の神代某という人物である。本系図は、初期の千葉氏一族の系譜を知る上で重要な資料である。	
(財)中世36	東京大学史料編纂所所蔵『文明明応年間関東禅林詩文等抄録』	1	県外	本資料は、文明～明応年間(1467～1500)の禅僧による詩文等の記録である。房総関係では、文明19(1487)年、季弘(きこう)大叔(だいしゆく)という禅僧が記した詩文のなかに「房州大守源湯川公」とみえる。この「房州大守源湯川公」は、安房の里見義実(安房里見氏の初代とされる人物)を指すと考えられている。本資料は、里見義実が所見される同時代の資料として貴重であり、あわせて里見義実が鎌倉の禅僧と密接な関係にあったことを知ることができる記録といえる。	
(財)中世37	東京大学史料編纂所所蔵『土気酒井記・酒井氏家系・土気古城再興伝来』	3	県内	本資料は、戦国時代、上総国土気城(千葉市緑区)・東金城(東金市)にそれぞれ拠った土気酒井氏と東金塚市に関する記録である。内容としては、酒井氏の系譜や由緒、酒井氏の家臣のこと、合戦の様子、酒井氏と日蓮宗(日泰上人)のかかわりといったものがみられる。本資料は、江戸時代後期の写本を明治時代に再度写したものである。現在は、東京大学史料編纂所の所蔵である。	
(財)中世38	東京大学史料編纂所所蔵『安房国大山地検地帳』	1	安房	本資料は、安房国における太閤検地に関する資料である。この太閤検地は、豊臣秀吉家臣増田長盛が検地施行者となり、慶長2(1597)年9月2日から同年11月4日まで行われたことが確認されている。この検地ののち、里見氏が石高による知行宛行状を出している。慶長2年の太閤検地によって、はじめて安房国里見領国内に石高制が確立されたといえる。本検地帳は、大山(千葉県鴨川市)地域に関わるものである。本資料は、安房国長狭郡平塚村(鴨川市)安田勲氏所蔵の慶長2年10月24日付検地帳を明治19(1886)年3月に写したものである。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世39	東京大学史料編纂所所蔵『里見分限帳(飯田家本)』	1	県内	本資料は、安房里見氏の分限帳である。分限帳とは、大名が家中の名前・知行高・役職などを記した帳簿のことである。本分限帳は、安房郡白濱村(千葉県南房総市)の飯田古太郎所蔵本を明治18(1885)年8月に写したものである。本分限帳の記載内容は、里見氏家中の人名と知行高・役職名である。本資料は、近世初頭における里見氏の家中構成や支配状況を知る上で参考となる。	
(財)中世40	東京大学史料編纂所所蔵『里見分限帳(丸家本)』	1	県内	本資料は、安房里見氏の分限帳である。分限帳とは、大名が家中の知行高・役職・姓名などを記した帳簿のことである。本分限帳は、安房国朝夷軍丸ノ郷西原村(千葉県南房総市)の丸良平氏所有の里見分限帳を明治18年8月に写したものである。この写本は、内務官河井庫太郎に差し出されている。内容としては、長狭・朝夷南・安房・平各郡における里見氏家中の知行高や寺社領などが記されている。	
(財)中世42	妙本寺所蔵『里見安房守忠義家中帳』	2	県内	本資料は、近世初頭の安房里見氏家中の名前・知行高・役職名を記した分限帳である。本資料は、明治19年5月に安房国吉濱村(千葉県鋸南町吉浜)妙本寺所蔵の家中帳を写したものである。妙本寺所蔵の家中帳は、明治18(1885)年に安房国平群郡竹内村(千葉県南房総市)網代右衛門蔵書の家中帳を写したものである。本分限帳は、知行高や知行者名は記されているものの、知行地が書かれていないなど他の里見氏分限帳と比較すると、簡略な記述となっていることが特徴である。	
(財)中世43	東京大学史料編纂所所蔵『里見系図』	4	県内	本資料は、安房国里見氏と上野国板花八幡城主里見氏の系図である。安房里見氏の系図は、里見織部義冬家蔵本・安房国密厳院本・関弥五兵衛義方家蔵本をそれぞれ写したもので、安房里見氏の系譜と歴代の動向が記されている。里見義冬家蔵本と密蔵院本は明治19(1886)年に、関義方家蔵本は明治20(1887)年に影写・複本が作成された。上野里見氏の系図は、上野国碓井郡里見郷(群馬県高崎市上里見町・中里見町・下里見町)を拠点とし、里見氏の祖とされる里見義俊にはじまる系図を記したもので、明治の初め頃影写された。本資料は、いずれも現在東京大学史料編纂所の所蔵となっている。	
(財)中世45	東京大学史料編纂所所蔵『香取大禰宜家文書(和学講談所本)』	220	香取	和学講談所本「香取大禰宜家文書」は、江戸時代後期に設立された学問所和学講談所の調査で模写された香取社大禰宜家の文書である。和学講談所の調査は、文化12(1815)年からはじめられた。内容としては、大禰宜職の譲状、香取社の造営にかかわるもの、撰閑家・鎌倉幕府・鎌倉府・千葉市・国分氏からの受領文書が多くみえる。和学講談所本「香取大禰宜家文書」のなかには、原本で確認されないものも含まれており、大禰宜家文書の全容を知る上で重要な文書群といえる。なお、和学講談所本「香取大禰宜家文書」は、『千葉県史料中世篇』香取文書・『千葉県の歴史資料編』中世2(県内文書1)にすべて活字化されている。	
(財)中世46	東京大学史料編纂所所蔵鶴澤文書	8	山武	本文書群は、上総国山辺郡東金町(千葉県東金市)に所在した鶴澤源四郎家所蔵の文書である。本文書群は明治18(1885)年9月に修史館重野安繹の探訪を受け、同19年10月に影写本が作成された。現在は、原文書の所在が不明であり、影写本のみが伝わる。本文書群では、天正18(1590)年に起こった小田原合戦の様子がうかがえる。小田原合戦に際し、小田原に在陣した上総国東金城主酒井政辰が在所に残った鶴澤・上代ら家臣に宛てた書状が多くを占める。書状の内容は、兵糧米の調達や陣所への回送を命じたものがみえる。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世47	東京大学史料編纂所所蔵『上総武田氏系譜』	2	県内	本資料は、享徳の乱初期に上総に入部、長南城（千葉県長南町）・真里谷城（千葉県木更津市）を拠点に上総中部以南を支配した上総武田氏の系譜を伝えるものである。この写本は、真如寺（千葉県木更津市）所蔵の資料を写したものである。本系譜は、他の過去帳・軍記・系図・家譜等も参照しながら作成されている。写本が作成された時期は、2点とも明治の初め頃を考えられている。2点は内容を同じくするが、一方には真如寺文書を写した記載がみられる。本資料は、上総武田氏の系譜を知る上で一つの素材となるものである。	
(財)中世48	東京大学史料編纂所所蔵『別本歴代古案』	1001	県外	米沢藩が編纂した戦国大名越後上杉氏（上杉謙信・同景勝）を主要対象とする資料集である。藩主上杉氏と藩士の家に伝来した古文書を収集のうえ筆録し、全17冊で構成される。東京大学史料編纂所の所蔵本は、昭和2年（1927）9月に高橋義彦氏により寄贈された写本で、五から十七までの13冊でなる。本資料集所収の文書には、戦国時代の越後上杉氏との関わりによる関東政情や房総諸氏との外交関係が確認できるものがある。	
(財)中世49	茨城県立図書館所蔵『松蘿館文庫』	1651	県外	水戸町年寄を務め学者でもあった加藤松蘿が書写し、編纂した史料集である。	
(財)中世50	京都府立京都学・歴彩館所蔵『香取神宮古文書』	59	香取	常陸国土浦の国学者色川三中によって江戸時代に書写された香取神宮の香取大宮司文書を、弘化4年に穂積重年が改めて書写した史料集である。香取大宮司家に伝来した南北朝期の文書などがある。	
(財)中世51	天理大学天理図書館所蔵山中山城守文書	97	県外	豊臣秀吉の家臣であった山中山城守家に伝来した文書群である。豊臣秀吉の朱印状や蔵入地関係の算用状、足利頼敦や里見義康から山中長俊宛の書状などがある	
(財)中世52	国立公文書館内閣文庫所蔵『香取古文書祭器』	1	香取	常陸国土浦の国学者色川三中が香取神宮と神官諸家に伝わった机・棚・盃・簞笥・御供台などを取りまとめた編纂物の写本である。	
(財)中世53	国立公文書館内閣文庫所蔵『諸州古文書』	858	県外	元文5年～寛保2年に江戸幕府八代将軍徳川吉宗の命により、青木昆陽が三河・伊豆・武蔵・甲斐・信濃各国の古文書調査のうえ模写し、編纂した史料集である。	
(財)中世54	国立公文書館内閣文庫所蔵『古文書集』	649	県外	江戸幕府が大名や旗本諸家、寺社などに伝来した古文書を謄写し、編纂した史料集である	
(財)中世55	国立公文書館内閣文庫所蔵『水月名鑑』	844	県外	江戸幕府が大名や旗本、大名家の家臣、寺社などに伝来した古文書を謄写し、編纂した史料集である。	
(財)中世56	国立国会図書館所蔵『集古文書』	2037	県外	奈良時代から江戸時代初期における国内各地の古文書を収集のうえ、様式ごとに編纂した文書集で、国立国会図書館の所蔵である。所載文書のなかには、戦国時代の房総関係史料もみられる。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世57	国立国会図書館所蔵『喜連川文書』	542	県外	関東足利氏の末裔である近世喜連川家に伝来した文書の一部。現在は国立国会図書館の所蔵となっている。内容は、室町時代から江戸時代に至る関東足利家(鎌倉公方・古河公方・小弓公方・喜連川家)における当主や家老の発給・受給文書をまとめた文書集である。	コピー・撮影不可
(財)中世58	国立国会図書館所蔵『武家書翰』	130	県外	南北朝から江戸時代初期における武将らの書状を収集・書写した史料集で、国立国会図書館の所蔵となっている。所載文書の多くは戦国・織豊期における武将の書状で、関東戦国史に関わる史料もみられる。	コピー・撮影不可
(財)中世59	静嘉堂文庫所蔵『香取古文書(色川本)』	23	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三申が所蔵していた、香取録司代家などに伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世60	静嘉堂文庫所蔵『香取文書(色川本)』	296	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三申が所蔵していた、香取大禰宜家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取大禰宜家文書についての伝来状況を確認できる。	コピー・撮影不可
(財)中世61	静嘉堂文庫所蔵『香取大禰宜家文書(色川本)』	234	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三申が所蔵していた、香取社の次官にあたる大禰宜家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取大禰宜家文書についての伝来状況を確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が失われたものの一部を本文書集より採録している。	コピー・撮影不可
(財)中世62	静嘉堂文庫所蔵『香取田所家文書(色川本)』	112	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三申が所蔵していた、香取社の神官、三奉行の一家にあたる田所家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取田所家文書についての伝来状況を確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が失われたものを本文書集より採録している。	コピー・撮影不可
(財)中世63	静嘉堂文庫所蔵『香取案主家文書(色川本)』	355	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三申が所蔵していた、香取社の神官、三奉行の一家にあたる案主家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取案主家文書についての伝来状況を確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が失われたものを本文書集より採録している。	コピー・撮影不可
(財)中世64	静嘉堂文庫所蔵『香取録司代家文書(色川本)』	191	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三申が所蔵していた香取社の神官、三奉行の筆頭で社務の管理に携わった録司代家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取録司代家文書についての伝来状況を確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が失われたものの一部を本文書集より採録している。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世65	静嘉堂文庫所蔵『香取源太祝家文書(色川本)』	97	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取社の神官で所領管理などに携わった源太祝家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取源太祝家文書についての伝来状況が確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が失われたものを本文書集より採録している。	コピー・撮影不可
(財)中世66	静嘉堂文庫所蔵『香取社新福寺文書(色川本)』	101	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取大禰官家と深い関わりを持つ新福寺文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における新福寺文書についての伝来状況が確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が失われたものを本文書集より採録している。	コピー・撮影不可
(財)中世67	静嘉堂文庫所蔵『香取検杖家文書(色川本)』	144	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取社で検杖の職にあった要害家の伝来文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取要害家文書についての伝来状況が確認できる。なお『千葉県の歴史』資料編中世2県内文書1では、原本が確認されないものを本文書集より採録している。	コピー・撮影不可
(財)中世68	静嘉堂文庫所蔵『香取物忌家文書(色川本)』	25	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取社で物忌の職にあった神官家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。香取物忌家文書が現在伝来が不明なため、本文書集は江戸時代後期における同文書についての伝来を示し貴重である。	コピー・撮影不可
(財)中世69	静嘉堂文庫所蔵『香取大宮司家文書(中山本)』	42	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国出身の国学者中山信名が香取社の長官にあたる大宮司家に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における香取大宮司家文書についての伝来状況が確認できる。	コピー・撮影不可
(財)中世70	静嘉堂文庫所蔵『香取郡神崎明神主文書(色川本)』	25	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取郡神崎の神崎神社に伝来した文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における神崎神社文書についての伝来状況が確認できる。	コピー・撮影不可
(財)中世71	静嘉堂文庫所蔵『香取文書諸家雑集(色川本)』	39	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取社の諸家に伝来した文書や鐘銘などを収集し編纂した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。江戸時代後期における諸文書の状況を確認できる。	コピー・撮影不可
(財)中世72	静嘉堂文庫所蔵『香取文書纂図(色川本)』	1	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中所蔵していた、香取神宮や神官諸家で使用された机・棚・盃・筆筒・御供台などを取りまとめた編纂物の写本である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世73	静嘉堂文庫所蔵『香取天正文禄検田帳(色川本)』	12	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、天正19年{1591}2月におこなわれた下総国香取郷内の香取社領の検地帳を写したものである。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世74	静嘉堂文庫所蔵『舟橋宮文書・六所宮文書』	32	東葛飾	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、下総国舟橋宮(舟橋神宮)と六所宮(須和田神社)伝来の古文書を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世75	静嘉堂文庫所蔵『常陸名家畑田文書』	111	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、常陸国鹿島郡の武士・畑田家伝来の古文書(畑田文書)を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世76	静嘉堂文庫所蔵『畑田文書』	111	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、常陸国鹿島郡の武士・畑田家伝来の古文書(同家の文書は現在、京都大学総合博物館所蔵)を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世77	静嘉堂文庫所蔵『正木文書』	246	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、上野国新田庄岩松郷を本願地とする武家・岩松家伝来の古文書(同家の文書は現在は群馬県立博物館寄託)を書写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世78	静嘉堂文庫所蔵『集古文書』	760	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、国内各地に伝来した文書を書写した史料集である。房総関係についても、この史料集でしか確認できない書写文書がみられる。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世79	静嘉堂文庫所蔵『続常陸遺文』	86	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、常陸国信太郡の古文書を書写した史料集である。房総にも関係する文書がみられる。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世80	静嘉堂文庫所蔵『築田家譜』	4	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、古河公方足利家の重臣で、下総関宿城(千葉県野田市)の城主であった築田家の家譜である。この家譜は、近藤守重が写したものを文政元年(1818)7月5日に中山信名が書写したもので、現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世81	静嘉堂文庫所蔵『豊前氏古文書抄』	69	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、古河公方足利家の重臣・豊前家の古文書一部をまとめた文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世82	静嘉堂文庫所蔵『関東没落記』	5	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、承応3年(1654)3月に北条弥左衛門なる人物の著作とされる天正18年(1590)の小田原合戦を扱った軍記物で、同合戦時の房総での戦闘についても記述がみられる。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世83	静嘉堂文庫所蔵『小弓の御所様御討死軍物語』	1	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、寛政6年(1794)8月5日に杏花図書によって書写された、第一次国府台合戦での小弓公方足利義明の討死に関する軍記物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世84	静嘉堂文庫所蔵『土岐系図・文書』	23	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、土岐家の系図と関係文書をまとめた編纂物で、万喜土岐家関係の史料もみられる。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世85	静嘉堂文庫所蔵『国府台合戦・笹子落・中尾落』	3	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、文化8年(1811)7月1日に中山信名が書写した第一次国府台合戦、上総武田家についての軍記物をまとめた編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世86	静嘉堂文庫所蔵『岡見系図・酒井系図』	2	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、常陸国牛久(同牛久市)の国衆・岡見家、下総国土気(千葉県緑区)・東金(東金市)の国衆・酒井家の系譜をまとめた編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世87	静嘉堂文庫所蔵『常総文書』	111	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、常総地域、特に下総国東部に伝来した古文書等を収集し編纂した史料集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世88	静嘉堂文庫所蔵『京都將軍御内書案』	251	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、文化4年(1807)2月16日に中山信名が書写した室町幕府將軍6代將軍足利義教~11代將軍足利義澄の御内書をとりまとめた史料集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世89	静嘉堂文庫所蔵『香取文書纂目録』上・下	2	香取	常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が編纂した香取神宮および社家の伝来文書をまとめた史料集所収の文書目録で、この目録が三中による『香取文書纂目録』の完成本とされている。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世90	静嘉堂文庫所蔵『香取文書纂目録』乾・坤	2	香取	常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が編纂した香取神宮の社家に伝来した文書をまとめた史料集所収の文書目録である。『香取文書纂目録』上・下の前段階のもので、編纂時における文書の伝来状況を確認することができる。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世91	静嘉堂文庫所蔵『香取文書完(中山本)』	25	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、中山信名が香取大禰宜家に伝来した文書の一部を書写した文書集である。当時の香取大禰宜家の文書伝来状況を確認することができる。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世92	静嘉堂文庫所蔵『香取諸家所蔵古升図』	4	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、香取大禰宜家、田所家、源太祝家に伝来した升の図などを書写した編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世93	静嘉堂文庫所蔵『香取新當流採摭集完』	1	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、文化4年(1807)正月に中山信名が香取社神人の小林玄蕃から書写した香取新當流奥書秘密口伝ほか香取新當流に関する史料をまとめた編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世94	静嘉堂文庫所蔵『嘉永六年癸丑十二月香取社夷賊調伏御祈禱始末全』	1	香取	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、嘉永6年に香取社でおこなわれた夷賊調伏御祈禱に関する史料をまとめた編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世95	静嘉堂文庫所蔵『物忌相立候日記』	1	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、寛文6年(1666)に作成された物忌家存続に関する記録を書写したものである。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世96	静嘉堂文庫所蔵『鹿島大宮司則広筆記・鹿島大神宮本地縁起・鹿島大神宮物忌由来記・息栖略縁起』	4	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、鹿島社大宮司が記した同社の記録、縁起や由来などをまとめ編纂したものである。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世97	静嘉堂文庫所蔵『古升図』	1	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、国内各地に伝わる升について収集のうゑ紹介した編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世98	静嘉堂文庫所蔵『集古図巻之三・巻之四』	2	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、国内各地に伝わる尺や升、印章などについて収集のうゑ紹介した編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世99	静嘉堂文庫所蔵『上総近江酒井両系図』	3	県内	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、上総国土気(千葉市緑区)・東金(東金市)の両酒井家、近江酒井家についての系図集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世100	静嘉堂文庫所蔵『総葉概録完』	1	印旛	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、正徳5年(1715)12月に佐倉藩儒学者の磯辺昌言らによって千葉家の系譜、同家に関わる下総国内の史跡についてまとめられた編纂物である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世101	静嘉堂文庫所蔵『大江山酒顛童子絵詞』	2	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、酒呑童子の説話についての絵詞である。現在は静嘉堂文庫所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世102	静嘉堂文庫所蔵『色川氏蔵書書函順次帳』	1	県外	常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた書物について書函順にまとめた目録である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世103	静嘉堂文庫所蔵『蔵書目録(土浦色川家蔵)』 上・下	2	県外	常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた書籍を内容分類順にまとめた目録である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世104	静嘉堂文庫所蔵『色川本目録(明治卅七年購入)』	1	県外	常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた書籍を内容分類順にまとめた目録である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世105	静嘉堂文庫所蔵『千葉家系図』	6	千葉	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、嘉永4年(1851)3月に加藤直臣によって編纂された千葉家のほか相馬家、武石家、大須賀家、国分家、東家といった千葉家一族の系図集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世106	静嘉堂文庫所蔵『常総遺文』	71	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、常総地域、特に下総国東部に伝来した古文書等を収集し編纂した史料集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世107	静嘉堂文庫所蔵『築田系図』	14	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、古河公方足利家の重臣で、下総関宿城(千葉県野田市)の城主であった築田家の系図を書写したものである。系図の後には同家に伝来した古文書も書写されている。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世108	静嘉堂文庫所蔵『鹿島大禰宜家文書』	135	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、鹿島社大禰宜家に伝来していた古文書を書き写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世109	静嘉堂文庫所蔵『大禰宜鹿島文書完』	53	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、鹿島大禰宜家に伝来の古文書を書き写した文書集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世110	静嘉堂文庫所蔵『南朝文書』	132	県外	江戸時代後期(1800年代)、常陸国土浦(茨城県土浦市)の国学者色川三中が所蔵していた、中山信名が水戸彰光館が所持する編纂物から南北朝時代における南朝の系図と文書を書写した史料集である。現在は静嘉堂文庫の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世111	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『山室譜伝記』 乾・坤	2	山武	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、『山室譜伝記』の写本である。『山室譜伝記』は、江戸時代に作成された、戦国時代に上総飯櫃城(芝山町)の城主だった山室家に関わる史書である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世112	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『成毛系図』	1	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、下総千葉家につらなる成毛家の系図である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世113	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『鹿島実系図・ 香取大宮司本系』	2	香取	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、鹿島家と香取大宮司家の系図をまとめた編纂物である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世114	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『千葉系図』	2	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、千葉家の系図二種を書写した編纂物である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世115	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『桓武平氏系図 (諸家系図纂十一)』	9	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、『桓武平氏系図』の写本である。『桓武平氏系図』は、千葉氏や三浦氏ら関東における桓武平氏の系図集である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世116	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『頼政卿墓』	1	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、源頼政墓に関する史料をまとめた編纂物である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世117	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『北総叢書常総 遺文』	315	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、常総地域の家や寺社に伝来した古文書などを収集しまとめた史料集である。戦国時代の下総国に關係する史料もみられる。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世118	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『麻園叢書』	98	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、各地の寺社や氏族の伝承や由緒などをまとめた編纂物で、下総国に関するものが多く見られる。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)中世119	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『北総叢書船橋大神宮旧記他』	5	東葛飾	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、船橋神宮に関する史料などをまとめた編纂物である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世120	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『北総叢書臼井家譜他』	4	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、臼井、大須賀、葛西の各家に関する史料などをまとめた編纂物である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世121	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『北総叢書東大寺文書他』	76	県外	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、各地の家や寺社に伝来した下総国関係の古文書などを収集しまとめた史料集である。現在は香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)中世122	香取神宮所蔵邨岡良弼旧蔵書籍『北総叢書香取神領部十一種』	25	香取	下総国北中村(千葉県多古町)出身の歴史学者・邨岡良弼が所蔵していた書籍の一つで、香取神宮の所領に関わる帳簿類をまとめた史料集である。現在は、香取神宮の所蔵となっている。	コピー・撮影不可
(財)近世01	石堂家文書	1330	安房	石堂村の名主をつとめた石堂家伝来の文書群。近世文書は、19世紀以降の村方文書のほか、嶺岡牧捕手関係、海防藩(忍藩・会津藩)の陣屋支配関係が特徴的である。また近代文書は、戸長役場・県の勸業政策・嶺岡牧場・石堂家の醤油醸造関係などがある。	一部マイクロフィルムでの提供
(財)近世02	藤乗家文書	3486	長生	本小轡村の名主をつとめた藤乗家伝来の文書群。近世文書は、17世紀史料が多数残存する点、享保期の新田開発関係、8・9代当主による日記・俳諧・漢詩関係や蔵書。また近代文書は、約7割が明治期の文書であり、明治初年の御用留、布達留類などがある。	
(財)近世03	奈良屋文書	340	香取	佐原村の商人仲間行司をつとめた奈良屋伝来の文書群。千葉県立中央博物館大根分館所蔵。宝暦7年の商人仲間帳、天明5年以降の河岸運上取立帳、文化13年の富多身講帖のほか、利根川・江戸川での難船関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世04	青柳家文書	7	香取	佐原村寺宿の青柳家伝来の文書群。千葉県立中央博物館大根分館所蔵。八丈島に流され、島抜けしたこと有名な喜三郎に関する資料である。	
(財)近世05	市井原区有文書	62	安房	市井原村に関する同区伝来の文書群。享保20年の「房州平郡卯御年貢米御蔵納入用帳」、寛延2年・寛政5年の村明細帳、文化8年の「道中入用日記帳」、天保5年の「古帳御写其外記録」のほか、嶺岡牧関係、海防関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世06	海発区有文書	152	安房	海発村に関する同区伝来の文書群。廻状留、諸願書留、年貢割付状、村明細帳などの村方文書のほか、天保15(1844)年の「最寄組合并継場助郷書上帳」、海防関係、三峰講関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世07	久枝区有文書	601	安房	久枝村に関する同区伝来の文書群。明暦元年の「堀田加賀守御知行改覚帳」、貞享5年の「鉄炮改帳并諸手形留」、延享2年の「久枝村差出帳控」、文政10年の「房州平郡久枝村五人組帳」のほか、境論訴訟関係、漁業関係、海運・海難関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世08	検儀谷区有文書	218	安房	検儀谷原村に関する同区伝来の文書群。幕末から明治初年の御用留17点や宝暦4年以降の年貢割付状89点のほか、村入用帳・宗門人別帳などの村方文書が特徴的な資料群である。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世09	忽戸区有文書	101	安房	忽戸村に関する同区伝来の文書群。名寄帳、年貢関係、五人組改帳、村入用帳などの村方文書のほか、蛇・心太草の漁業関係、台場普請関係、用水争論関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世10	珠師ヶ谷区有文書	346	安房	珠師ヶ谷村に関する同区伝来の文書群。日記諸用留・名寄帳・年貢関係・村明細帳・五人組改帳・村入用帳などの村方文書のほか、嶺岡柱木牧関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世11	館山市立博物館所蔵沼区有文書	88	安房	沼村に関する同区伝来の文書群。館山市立博物館所蔵。御用留、年貢割付状、村明細帳などの村方文書のほか、天保7年の「諸書物諸帳面取調帳」、湊普請関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世12	沼区有文書	45	安房	沼村に関する同区伝来の文書群。年貢割付状、村明細帳などの村方文書のほか、拝借鉄砲証文、溜池争論関係が特徴的な資料群である。また、幕末から明治初年の諸願書がまとまっており、明治24年の「郷諸帳面改帳」が残されている。	
(財)近世13	花園区有文書	80	安房	花園村に関する同区伝来の文書群。元禄3年の「検地改之帳」、天保11年の「諏訪明神出入御裁許書写」、文久元年の「村方旧記并諸道具類留帳」、山論関係、溜井普請関係などが特徴的な資料群である。また、明治期の採鮑漁業訴訟関係書類がまとまっている。	
(財)近世14	平館区有文書	228	安房	平館村に関する同区伝来の文書群。享保12年の「安房国朝夷郡平館村検地野帳」、年貢関係、村明細帳などの村方文書のほか、漁業関係、海防関係、海難関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世16	貝渚区有文書	140	安房	貝渚村（鴨川市）に関する同区伝来の文書群。検地帳・名寄帳、年貢関係、宗門人別帳などの村方文書のほか、金山村との山論関係、磯村との漁業関係、海防関係、嶺岡牧関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世17	砂取区有文書	642	安房	滝口村砂取（白浜町）に関する同区伝来の文書群。御用留、名寄帳、五人組書帳などの村方文書のほか、海難関係、蛇・心太草などの漁業関係が特徴的な資料群である。また、明治・大正期の漁業権免許関係書類がまたまっている。	
(財)近世18	清宮家文書	3939	香取	佐原村下宿組の名主を務めた清宮家伝来の文書群。『下総国旧事考』などの清宮秀堅の著作、清宮家の家政関係、秀堅が天保6年に下宿組名主に就任以降の村政関係、地祖改正関係、戸長役場関係、県会関係などがある。	(財)近世P9957はマイクロフィルムでの提供
(財)近世19	足川区有文書	65	海匝	足川村に関する同区伝来の文書群。旭市文書館寄託。宝暦8（1758）年以降の村々諸用控帳、嘉永元（1848）年・同2年の年貢皆済目録、万延元（1860）年の「当西年村方諸入用覚」、宝暦4（1754）年の「年中立網一件書類写」、慶応2（1866）年の「廻船水鱈村利取調帳」、塩場関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世21	荒北区有文書	281	香取	荒北村（香取市<旧栗源村>）に関する同区伝来の文書群。検地帳・名寄帳、年貢皆済目録、宗門人別帳・五人組連名帳など村方文書のほか、延享2（1745）年の「餌取札」が特徴的な資料群である。また、明治期の布達留類、明治5（1872）年の「岩部学校村内証文帳」がある。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世22	柴崎町区有文書	55	海匠	柴崎村に関する同区伝来の文書群。天正19(1591)年の検地帳、元和3(1617)年の名寄帳、年貢関係、五人組改帳などの村方文書のほか、寛政8(1796)年の「惣村相定書帳」、地境・用水・秣場争論関係が特徴的な資料群である。また、昭和20(1945)年の戦時関係書類綴がある。	
(財)近世23	本橋元町内文書	6	香取	佐原村本橋元町(香取市<旧佐原市>)に関する同町伝来の文書群。弘化5(1848)年の「町法議定写書」、明治27(1894)年の町内株高月掛調帳などが特徴的な資料群である。	
(財)近世24	松沢区有文書	4	海匠	松沢村(旭市<旧干潟町>清和乙)に関する同区伝来の文書群である。大原幽学記念館寄託。昭和9(1934)年の熊野権現根津鉄砲所持一札、嘉永7(1854)年の「異国船浦賀表渡来聞書」などが特徴的な史料である。	
(財)近世25	三崎町区有文書	61	海匠	三崎村(銚子市)に関する同区伝来の文書群。慶長17(1612)年の検地帳写、正徳6(1716)年の「下総国海上郡三崎村田改帳」、寛保2(1742)年の「内林改之帳」などが特徴的な資料である。	
(財)近世26	横根岡区有文書	53	海匠	横根岡村(旭市<旧飯岡町>横根)に関する同区伝来の文書群。飯岡歴史民俗資料館寄託。安政3(1856)年の「御池頭所御用向控留覚帳」、年貢関係、人別改帳・五人組合帳などの村方文書のほか、宝暦10(1760)年の納屋請証文、岡浜争論の記録「明治實取集」、安政6(1859)年の「村方書類記録帳」が特徴的な資料群である。	
(財)近世27	久留里大谷区有文書	328	君津	大谷村(君津市久留里大谷)に関する同区伝来の文書群。房総史料調査会よりマイクロフィルム提供。久留里城址資料館所蔵。本新田名寄控帳、年貢割付、村明細帳、宗門人別帳・五人組帳、村入用帳などの村方文書のほか、文政・天保期の御用竹割付帳が特徴的な資料である。	
(財)近世28	北塚区有文書	52	長生	北塚村(茂原市)に関する同区伝来の文書群。茂原市立美術館・郷土資料館寄託。検地帳、年貢割付帳、宗門人別帳・五人組改帳、村明細帳などの村方文書のほか、天和2(1682)年の北塚村と七渡村の野論裁許絵図、慶応4(1868)年の鍛冶屋谷住還傍示杭一件につき議定一札などが特徴的な資料である。	
(財)近世29	渋谷区有文書	62	長生	渋谷村(茂原市)に関する同区伝来の文書群。検地帳・名寄帳、年貢割付帳、村明細帳などの村方文書のほか、明治4(1871)年の渋谷村絵図、明治期の「長柄群渋谷村史」および近世の用水争論・村境争論関係が特徴的な史料群である。	
(財)近世30	台方区有文書	231	山武	台方村(東金市)に関する同区伝来の文書群。村法度箇条書、検地帳・名寄帳、雄蛇ヶ池用水関係、芝地銭割付関係、祭礼入用関係などが特徴的な資料群。	
(財)近世31	田中区有文書	154	安房	田中村(東金市)に関する同区伝来の文書群。御用留、御蛇ヶ池用水関係、小間子野草札銭関係、御鷹御用関係、鹿狩御用関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世32	中富区有文書	283	君津	中富村(君津市)に関する同区伝来の文書群。検地帳名寄帳、年貢関係、宗門人別帳・五人組改帳など村方文書のほか、天保14(1843)年の「商人規定書」、安政6(1859)年の「大般若勸金貸附帳」、用水普請関係が特徴的な文書である。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世33	永田区有文書	127	山武	永田村(大網白里市)に関する同区伝来の文書群。慶長16(1611)年の検地帳、年貢関係、鷹匠五郷五人組帳・改革五人組帳、天保9(1838)年の村明細帳、天保15(1844)年の「農間商人名前書上帳」、鷹匠関係、助郷関係、天保飢饉関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世35	山口区有文書	507	山武	山口村(東金市)に関する同区伝来の文書群。御用留、検地帳・名寄帳、年貢関係村入用帳、用水関係、猿橋野秣場関係、鷹場関係などが特徴的な資料群である。また、享保20(1735)年の山口村新田検地帳、嘉永7(1854)年の山口村新田絵図面がある。	
(財)近世37	九十九里町立いわし博物館収蔵文書	1754	山武	粟生村(九十九里町)の網主飯高家文書、片貝村の名主小川家、作田村の網主作田家、小関村の名主小松原家他九十九里浜の地引網経営関係、鷹場関係、海防関係、真忠組関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世38	湯浅家旧蔵文書	1024	東葛飾	中野久木村(流山市)の名主をつとめた湯浅家伝来の文書群。野田市桜木神社所蔵。元禄12(1699)年「巳卯歳中野久木村検地帳写」・享保6(1721)年「下総国葛飾郡中之久木村明細帳」・享保16(1731)年「下総国葛飾郡中ノ久木村小入用帳」・宝暦13(1763)年「宗門人別改帳」・安永3(1774)年「午御年貢可納割附之事」など村方文書が特徴的な資料群である。また、享和2(1802)年「江戸川通両縁堤御普請所絵図」・文化10(1813)年「江戸川通堤川除普請仕様帳」など江戸川治水関係が残されている。	
(財)近世39	平山(高)家文書	3143	海匝	鐙木村(旭市<旧干潟町>)の地主平山家伝来の文書群。宝暦12(1762)年ほか「田圃小作牒」・宝暦10(1760)年ほか「書出帳」など地主経営関係、天保12(1841)年ほか「御用向留牒」・文化7(1810)年「御賭金通帳」・「御勝手一式積帳」など旗本原田氏の勝手賄関係、元禄3(1690)年「酒之通」・安政6(1859)年「酒代書出牒」・文久2(1862)年「酒造仕込帳」など酒造関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世40	森川家文書	2063	長生	千沢村(茂原市)旗本河野氏知行所の名主をつとめた森川家伝来の文書群。慶安2(1649)年「千沢村丑年貢割付之事」・延宝2(1674)年「上総国長柄郡二之宮庄千沢村水帳」・元禄9(1696)年「五人組之帳」・元禄12(1699)年「村中入用覚」・天保15(1844)年「宗門御改人別帳控」・嘉永元(1848)年「年中御暮方御仕法帳」などの村方文書が特徴的な資料群である。また、安永6(1777)年の卵塔場一件関係や嘉永4(1851)年「頼母子連中控帳」が残されている。	
(財)近世41	相山家文書	1462	君津	木村(富津市)の神職をつとめた相山家伝来の文書群および望井・花輪・数馬・売津・岩坂・恩田・梨沢・海良・湊村などの収集文書。検地帳・名寄帳・村明細帳・宗門人別帳など村方文書ほか、寺院の過去帳・神職関係・佐貫藩関係・鬼泪山関係などが特徴的な資料群である。また、天明9(1789)年「黒坂日記 壱」(写)が残されている。	
(財)近世42	今関家文書	1257	長生	矢貫村(長南町)旗本三枝氏知行所の名主をつとめた今関家伝来の文書群。旗本勝手賄関係、長南市場出入関係、酒造関係、一乗院名目貸附金関係などが特徴的な資料群である。また、明治期の「民間雑誌」「新聞雑誌」「千葉新報」が残されている。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世43	青柳(義)家文書	1062	印旛	滑川村(成田市<旧下総町>)の名主をつとめた青柳家伝来の文書群。成田市下総歴史民俗資料館所蔵。文禄3(1593)年「下総国香取郡滑川村御縄打水帳」・寛保元(1741)年「下総国香取郡滑川村五人組御改帳」・明和9(1772)年「御差出下総国香取郡滑川村明細写」など村方文書のほか、酒造関係・正龍寺関係などが特徴的な資料群である。また、文政5(1822)年「西大須賀村一件訴答状留」や草莽の志士・青柳高鞆の書状が残されている。	
(財)近世44	江波戸家文書	1316	海匝	東小笹村(匝瑳市<旧八日市場市>)旗本高力氏知行所の名主をつとめた江波戸家伝来の文書群。近世文書は、基本的に名主の役儀をつとめる中で作成された「名主文書」である。東小笹村内の名主組、旗本高力氏知行所と支配、年貢地払いと高田川岸等への津出し、農間渡世、網元と漁業経営、難船とその処理をめぐる問題などがあげられる。また、膳所藩本多家(譜代大名)の縁類という由緒に関する史料や、これと密接に関わる慈眼寺・三社宮関係の史料が特徴である。 近代文書は明治期1,909点、大正期221点、昭和期116点(年未詳や書簡を除く)と約80パーセントが明治期の文書である。特徴的な資料群として、明治初年の御用留・布達留類、戸長役場関係、漁業税関係などがあげられる。	
(財)近世45	後藤家文書	2360	東葛飾	布施村(柏市)の名主をつとめた後藤家伝来の文書群。柏市教育委員会寄託。「河岸場証拠書物写一」・「川岸場一件控書一」など布施河岸関係、「下総国下利根川流通作場御請証文」・「下利根川流通作田并芝畑開発反別機寄帳」など流作場関係、「布施弁財天由来由記」・「開帳中日記覚帳」など布施弁天関係、「水戸中納言様御鷹場法度之事」・「水戸様御鷹場村鎮守並石高寺院名主控帳」など水戸家鷹場関係が特徴的な資料群である。また、「遊行上人御修行書物控」など遊行上人関係も残されている。	
(財)近世46	多田家文書	1734	香取	須賀山村(東庄町)旗本石河氏知行所の郷大(在地代官)をつとめた多田家伝来の文書群。寛政11(1799)年「御用留日記」・寛政12(1800)年「下総国香取郡之内村々高長」・万延元(1860)年「東御知行四ヶ村々御年貢米永取立控帳」など知行所2000石の在地支配関係、安政4(1857)年「醤油店卸長」・文久2(1862)年「醤油仕切・塩代差引御通帳」など醤油醸造関係が特徴的な資料群である。また、天明7(1787)年「村中飢渴人救米配渡改控」が残されている。	
(財)近世47	大曾根家文書	1882	夷隅	鴨根村(いすみ市岬町)に陣屋が置かれた旗本阿部氏知行所の在役(在地代官)をつとめた大曾根家伝来の文書群。千葉県立中央博物館大多喜城分館寄託。寛永4(1664)年「領地郡村高辻帳」・延宝8(1680)年「三千石領御物成納辻」・明和5(1768)年「七ヶ村人別改控帳」・安永5(1776)年「丙申御知行所宗門改類寄帳」など知行所3000石の在地支配関係、元禄2(1689)年「御宿郷浦方割帳」・元禄8(1695)年「湯浅四郎助網札入帳」など御宿浦・塩田浦の漁業関係が特徴的な資料群である。また、幕末期の当主大曾根忠兵衛惇信による公私日記・年中日記が残されている。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世48	鈴木(万)家文書	897	夷隅	笛倉村(大多喜町)の名主をつとめた鈴木家伝来の文書群。文禄3(1594)年「西畑之内笛蔵之村坪入改帳」、寛永12(1635)年「西之畑御縄打之帳」、元和9(1623)年の年貢割付状、安永10(1781)年「宗旨御改五人組帳」のほか、岩槻藩奥山御林関係、用水普請関係、村内家格関係、明和9(1772)年の笛倉村百姓傘連判状などが特徴的な資料群である。	
(財)近世49	色川三中来翰集	1200	県外	常陸国土浦(茨城県土浦市)の民間学者・色川三中への来翰集4帙2帖である。原本は静嘉堂文庫(岩崎弥太郎の弟弥之助および嗣子小弥太によって集められた和漢書約20万冊)に所蔵。この来翰集により色川三中と下総佐原(香取市〈佐原市〉)の清宮秀堅・伊能穎則ら民族学者との交流がわかる。色川三中は年代別に書状を整理して残したため、彼らと色川三中とがやりとりした書状の年代が判明した。来翰集とあるが、書状以外の資料も多数含んでいる。	コピー・撮影不可
(財)近世50	岩本家文書	582	東葛飾	木間ヶ瀬村(野田市〈旧関宿町〉)の名主をつとめた岩本家伝来の文書群。野田市市史編纂委員会寄贈。享保3(1718)年「木間ヶ瀬村新田之事」、天明2(1782)年「富士浅間山築人足帳」、天明7年の天満宮再建寄附金書上帳、安政7(1860)年「公私用日記」のほか、中利根川普請関係、年貢関係などが特徴的である。また安永4(1775)年「中里村・木間ヶ瀬村出入控」がある。	
(財)近世51	高宮家文書	842	山武	押堀村(東金市)の名主をつとめた高宮家伝来の文書群。承応3(1654)年の雄蛇溜池一件目安日記写、元禄2(1689)年の押堀村水帳写、安政3(1856)年の地震献納金受取書、安政6(1859)年「遺言一期帳」、文久2(1862)年の鎮守山王宮祭礼議定、文久4(1864)年の真忠組武具用意金借用証のほか、年貢関係、質地証文などが特徴的な資料群である。	
(財)近世53	吉野家文書	450	夷隅	廃藩置県による岩槻藩勝浦役所の解体で、明治4(1871)年11月に名木村(勝浦市)の吉野家に残された文書群。「役所日記」や「諸伺留」などの役所文書のほか、文政8(1825)年「異国船諸手当一件留写」・嘉永6(1853)年「異国船御用留」など海防関係、文化元(1804)年「上総国領分酒造米高書付」などが特徴的である。	一部マイクロフィルムでの提供
(財)近世54	富塚家文書	666	山武	木崎村(大網白里市)旗本服部氏知行所の名主をつとめた富塚家伝来の文書群。寛永10(1633)年「両給別之帳」、宝永6(1709)年「田畑反別寄帳」、宝暦8(1758)年「丑之年中村入用帳」、嘉永5(1852)年「宗門人別御改帳」、享和4(1804)年「伝馬帳」のほか、年貢関係・酒造関係・証文分などが特徴的な資料群である。また、内証題目講弾圧事件に関する寛政4(1792)年「宗旨一件御裁許書」が残されている。	
(財)近世55	五木田家文書	929	県外	水海道村(茨城県常総市〈旧水海道市〉)の名主をつとめた五木田家伝来の文書群。千葉県立関宿城博物館所蔵。水海道河岸の河岸問屋・廻船業関係が特徴的である。また享和3(1803)年「きぬ・小貝両川通流作年貢割付明細村鏡」、弘化2(1845)年「難船向要用留帳」などがある。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世56	椎名家文書	734	県外	野木崎村(茨城県守谷市)の名主をつとめた椎名家伝来の文書群。寛政5(1793)年「御用留日記」・寛政元(1789)年「五人組仕置帳」・宝暦5(1755)年「下総国相馬郡野木崎村差出明細帳」のほか、年貢関係・川除普請関係などが特徴的である。また天明2(1782)年「西国道中日記帳」、嘉永元(1848)年「馬商買留帳」などがある。	
(財)近世57	秋葉家文書	876	県外	崎房村(茨城県常総市<旧石下村>)の名主をつとめた秋葉家伝来の文書群である。日本大学文理学部史学研究室が所蔵している。飯沼新田開発関係が特徴的である。また印旛沼堀割普請関係や小金牧鹿狩関係などがある。	コピー・撮影不可
(財)近世58	鈴木(士)家文書	585	君津	金谷村(富津市)の地方名主をつとめた鈴木家伝来の文書群。漢文10(1670)年「金谷村御検地水帳写」、貞享2(1685)年「上総国金谷村割付之事」、延享3年(1746)年「江戸往来船人別帳」、安政3(1856)年「貯穀規定書」のほか、漁業関係、海防関係、石材関係、海難関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世60	岩崎家文書	364	安房	元名村(鋸南町)の名主をつとめた岩崎家伝来の文書群。総点数726点。鋸南町歴史民俗資料館寄託。慶長17(1612)年・元和6(1620)年の検地帳、寛永8(1631)年以降の年貢関係のほか、海付村落として漁業・海難・海防関係が特徴的な資料群である。また、享保4(1719)年の日本寺と元名村との山林伐採禁止に関する訴訟資料も残されている。	
(財)近世61	川名家文書	132	安房	小保田村(鋸南町)の名主をつとめた川名家伝来の文書群。総点数523点。慶長・元和期と推定される指出検地をはじめ、寛永・万治など近世初期の年貢関係のほか、文政6(1823)年から天保7(1836)年までの支配・訴訟・村況を記した「小保田村名主要用抜書」、文政10(1827)年の改革組合村の編成や寄場を記した「安房国中村高調書上写」などが特徴的な資料群である。	
(財)近世62	加藤家文書	33	安房	平久里中村(南房総市<旧富山町>)の名主をつとめた加藤家伝来の文書群。総点数428点。元和6(1620)年・明暦元(1655)年の検地帳のほか、宝永5(1708)年の「天神宮修造記」、宝暦5(1755)年の嶺岡牧士「惣仲間由緒書控」、嘉永5(1852)年の「カピタン指出候封書和解」などが特徴的な資料群である。	
(財)近世63	高梨家文書	246	安房	荒川村(南房総市<旧富山町>)の名主をつとめた高梨家伝来の文書群。総点数1113点。宝暦5(1755)年の「惣仲ケ間由緒書控」など嶺岡牧関係、文政6(1823)年以降の年貢米蔵納諸入用帳のほか、慶応2(1866)年の「兵賦一条書留帳」、明治初年の東海道助郷一件関係が特徴的な資料群である。	
(財)近世65	三浦家文書	181	安房	坂之下村(南房総市<旧富浦町>富岡)の名主をつとめた三浦家伝来の文書群。総点数316点。宝永2(1705)年の「坂之下浦水帳」、享保21(1736)年の「坂之下村留海いな取場勘定帳」、天保9(1838)年の「細魚漁業二付申渡」、万延元(1860)年の「船組帳」など漁業関係のほか、浦証文など海難関係が特徴的な資料群である。なお明治7(1874)年に坂之下村は塩入村と合併し富岡村となった。その後、三浦家は、大正6(1917)年に現在地の原岡に転居している。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世66	堀江家文書	34	安房	瀬戸村(南房総市千倉町)の下瀬戸組名主をつとめた堀江家伝来の文書群。総点数1147点。天保8(1837)年の「村方明細差出帳控」、弘化3(1846)年以降の御用留、嘉永3(1848)年の「異国船渡来之節心得方并二役船役人足出方割賦被仰渡請証文」、安政5(1858)年の「干鯛俵口運上取調書上帳」などが特徴的な資料群である。	
(財)近世67	秋葉(真)家文書	192	長生	北塚村(茂原市)の村役人をつとめた秋葉家伝来の文書群。近世文書は、年番名主・名主・組頭役に関係する文書群で、天正の検地帳や北塚村周辺の村々との争論関係の文書群である。	
(財)近世68	宝珠院文書	1490	安房	府中村(南房総市<旧三芳村>)の新義真言宗国触頭・宝珠院に伝来の文書群。	コピー・撮影不可
(財)近世69	円福寺文書	263	海匠	飯沼村(銚子市)の真言宗円福寺に伝来する文書群。同寺は新義真言宗智山派に属し、坂東三十三観音の27番札所で飯沼観音と呼ばれる。	コピー・撮影不可
(財)近世70	館山市相浜漁業協同組合文書	241	安房	相浜村(館山市)に関する漁業協同組合伝来の文書群。館山市立博物館寄託。慶安4(1651)年の「屋代越中守様間地御改覚」、明暦2(1656)年の相浜村・犬石村・大神宮村浜論・香取柴間境論裁許絵図、安政5(1858)年・明治5(1872)年村明細帳、慶応2(1866)年の「宗門人別御改帳」のほか、漁業関係、難船関係などが特徴的な資料群である。	
(財)近世71	安西家文書	134	安房	東長田村(館山市)の名主をつとめた安西家伝来の文書群。館山市立博物館所蔵。天保14(1844)年の御用留、文化8(1811)年・嘉永7(1854)年・慶応4(1868)年の村明細帳、文政6(1823)年の五人組帳のほか、明治元(1868)年の大名主動方心得書控、安政6(1859)年の日記、明治2(1869)年の「安房国安房郡東長田神社記」などが特徴的な資料群である。	
(財)近世72	那古寺文書	962	安房	館山市那古の新義真言宗の那古寺に伝来する文書群。館山市立博物館寄託。天文14(1514)年棟札の銘文写、天正18(1590)年里見義康寺領安堵状、寛文12(1672)年浦浜裁許図裏書、文化2(1805)年智山上総組宿用心覚のほか、住職の選任、法会の執行、配下の衆分との関係、江戸での出開帳を示す文書が特徴的な資料である。また、鶴谷八幡宮の神職・祭礼に関する文書も含まれている。	コピー・撮影不可
(財)近世73	東光寺文書	912	印旛	酒々井村(酒々井町)の真言宗東光寺に伝来の文書群。文化5(1808)年以降の「公私留」、文政2(1819)年の「御本丸大般若執行留」、文政6(1823)年の「本山并御役寺添簡当寺記録」安政5(1858)年の「大般若当番記録」、文化14(1817)年の「京都智積院僧正成田御通行之留」、安永3(1774)年ほかの東光寺人別改帳、宝暦5(1755)年の門末寺社支配改帳、安永8(1779)年ほかの住職証文、安政6(1859)年の「東光寺門末檀用記」、万延元(1860)年の「新入衆引之目録」、慶応2(1866)年の「本寺門末檀用日記帳」などが特徴的な資料群である。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世74	飯高寺文書	107	海匠	飯高村(匠瑳市〈旧八日市場市〉)の日蓮宗飯高寺(法輪寺、飯高檀林ともいう)に伝来の文書群。天正20(1592)年の「飯高の内渡申御寺領之事」、寛文3(1663)年の「首座法軌起請文」、元禄7(1694)年・元禄17(1704)年の「学徒帳」、享和3(1803)年の「御由緒明細書」、天保12(1841)年の「大御所様薨御之節納経拝礼諸事日記」、「檀林録上・下」、「萬代不易法度書」、「過去帳縁起」などが特徴的な資料群である。	コピー・撮影不可
(財)近世75	日本寺文書	91	香取	南中村(多古町)の日蓮宗日本寺(中村檀林)に伝来の文書群。「聚塵綱要年譜実録」(寺院年表)「聚塵」(日記)、慶長10(1605)年の「檀林清規」、元禄元(1688)年の「檀林年貢帳」、享保13(1728)年の「満山制法帳」、明和7(1770)年の「当山由緒等記」、文政10(1827)年の霊簿序などが特徴的な資料群である。	コピー・撮影不可
(財)近世76	湯浅家文書	319	東葛飾	布瀬村の名主を代々つとめた湯浅家に伝来した文書群。寛文期以降の年貢割付皆済目録のほか、鳥獵・漁獵関係の文書などがある。	
(財)近世77	前橋市立図書館所蔵『松平家記録』	12	県内	前橋藩松平家の藩政記録である。同藩は、上総・安房両国に分領をもち、また幕末には相模国沿岸防備を担当した。このことから、同記録には上総・安房分領や相模国沿岸防備に関わる記述が見られる。	
(財)近世78	館山市立博物館所蔵根岸家文書	267	安房	安房郡八幡村(館山市)の名主をつとめた根岸家伝来の文書群である。近世文書は、17世紀以降に村方文書のほか、八幡宮(鶴谷八幡宮)修復・造営関係、奉納相撲関係、海防藩(忍藩)の陣屋支配関係、押送船関係などが特徴的である。	
(財)近世79	京都大学文学部古文書室所蔵由比氏旧蔵文書	147	県外	佐倉藩士由比家の旧蔵になる文書群である。由比家は300石取の藩士で堀田家に仕えた。由比安兵衛演徴(?~1812)、由比安兵衛演義(?~1846)父子が書写した藩政史料が多く見られる。後者の安兵衛演義は、文政6年(1823)より番頭、天保6年~弘化3年(1835~1846)には年寄役を勤め、要職にあって天保期の佐倉藩政を支えた人物の一人である。内容的には、堀田正信が佐倉藩主だった17世紀半ばのものや、17世紀後半~18世紀前半の古河・山形・福島藩時代のものも含む。	
(財)近世80	京都大学総合博物館所蔵佐倉藩文書	74	県内	由比演徴、由比演義の名が多く見えることから、「(財)近世79 京都大学文学部古文書室(旧文学部博物館)由比氏旧蔵文書」と出所を同じくする文書群と思われる。由比氏旧蔵文書は基本的に冊もの、本文書群は状ものであるため、もともと一つだった文書群を、文書の形態によって二つに分けたのであろう。内容の特徴は、由比氏旧蔵文書と同じく、佐倉藩の藩政史料の写しと言ってよい。	
(財)近世81	柴家文書	79	山武	旧山辺郡台方村の名主・組頭などを務めた柴茂左衛門家伝来の文書群である。真忠組一件始末書(元治元年)、御用村組用日記留(慶応元年~同3年)などの文書がある。	
(財)近世82	東京大学法学部研究室図書館法制史資料室所蔵文書	468	県内	上総国山辺郡二又村の御用留・日記や、同郡山口村の「書物」はそれぞれ数十冊に及ぶ。そのほか、房総に所領を有した旗本仙石氏や佐倉藩、下総国埴生郡安食村、同国海上郡飯岡村に関係する文書が多い。	コピー・撮影不可

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近世83	猪野家文書	115	山武	旧山辺郡上布田村の名主を代々務めた猪野七郎右衛門家伝来の文書群である。「御鷹方御用筋控」・「御鷹御用日記留」など御鷹場関係の文書、「富田村道案内勘次郎検使一件」や「信州筑摩郡大池村検使一件帳」など道案内人の関係文書、公事方御定書の控書、近代の任命書やその他種々の賞状・下賜状等々がある。	
(財)近世84	船橋市西図書館所蔵文書	146	県内	船橋市西図書館が所蔵する文書群である。小金牧の鹿狩、上総・下総の鷹場御用、九十九里や銚子の漁業などに関する文書がある。	
(財)近世85	宮負克己家文書	295	海匝	当家に伝来した文書群である。国学者宮負定雄の残した稿本や、定雄の師である平田篤胤の自筆稿本『古史徴』などの著作物がある。	
(財)近世86	海上八幡宮文書	671	海匝	下総国海上郡柴崎村の海上八幡宮の社務所及び代々神主を務めた松本家伝来の文書群である。柴崎村内の朱印地、祭礼・神事、神殿の普請・勸化、柴崎村の村方騒動などの訴訟に関するものや、海上八幡宮の由緒などを県に対して報告したものがあ	
(財)近世87	君津市史編さん室所蔵綾部政栄家文書	128	君津	上総国周准郡中野村の名主を務めた当家伝来の文書群である。東海道原宿や幕末の房総往還の助郷、小糸川の水利、稲荷山長安寺の供米寄付、当家が旗本小笠原家から譲り受けた茶畑などに関する文書がある。	
(財)近世88	本宮市立歴史民俗資料館所蔵佐藤正司家文書	147	君津	二本松藩領安達郡青田村の名主で、同藩富津預地31か村の郡方手附として富津に派遣された佐藤東十郎家伝来の文書群である。二本松藩が富津台場警備を担った際の文書で、郡方手附が任地の様子を国元に知らせた書状、富津陣屋在番中の日記などがある。	
(財)近現代01	『千葉日報』	626	県内	千葉日報新聞社が発行する日刊紙。昭和32年1月1日創刊号～昭和51年分まで。	
(財)近現代02	東京大学大学院法学政治学研究科附属近代日本法政史料センター明治新聞雑誌文庫所蔵文書	310	県内	県内で発行された明治期の代表的な新聞である『総房共立新聞』、『千葉公報』、『東海新聞』、『新総房』、『千葉毎日新聞』の他、木更津・佐原・佐倉などの地域で発行された新聞・雑誌、明治7年の千葉県日誌などがある。	
(財)近現代03	千葉県立中央図書館所蔵文書	1262	県内	『千葉毎日新聞』『房総日日新聞』『房総新聞』『千葉新報』『千葉日日新聞』のほか、『郵便報知新聞』『朝野新聞』などの県関係記事の抜粋、『東京朝日新聞』『東京日日新聞』『読売新聞』の地方版、雑誌『斯民』『旭光』『農業千葉』や刊本などである。	
(財)近現代04	国立公文書館所蔵『公文録』	2360	県内	大政官が、明治元年（一部それ以前のものを含む）から太政官制が廃止される明治18年までの公文書の原本を各庁別に分類し、年月順に編集した「公文録」のうち、千葉県に係わる部分である。	
(財)近現代05	国立公文書館所蔵『太政類典』	846	県内	太政官が、「公文録」や「太政官日誌」（布告・達書）などから慶応3年～明治14年の典例・条規を抜き出して「制度」など19部門に分類・編集した「太政類典」のうち、千葉県に係わる部分である。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代06	『千葉県統計書』	195	県内	明治7年の県治一覧、明治13年、14年の県統計表、明治20年代までの県統計書である。	
(財)近現代07	千葉県議会事務局図書室所蔵『千葉新聞』	131	県内	戦時中に1県1紙として統合された『千葉新報』と、戦後に同紙を継承して復刊された『千葉新聞』（昭和21年～昭和31年）。	
(財)近現代08	千葉県議会事務局図書室所蔵『県会議事録』	1582	県内	明治9年の県会から昭和25年の県議会までの議事録。	
(財)近現代09	小高家文書	1	県外	歩兵第二連隊に属して日清戦争に従軍した兵士の「征清日誌」である。明治27年9月に佐倉を出発して以降、遼東半島までの行軍や現地での戦闘の様子について記されている。	
(財)近現代10	国立国会図書館憲政資料室所蔵日本占領期資料	367	県内	米国国立公文書館等が所蔵する日本占領統治関係のアメリカ公文書等を国立国会図書館がマイクロフィルムで収集した資料。GHQ民事局・参謀第二部・経済科学局・天然資源局・民間情報教育局等の文書および米国戦略爆撃調査団文書である。	
(財)近現代11	国立国会図書館憲政資料室所蔵憲政資料	33	県内	幕末から現代にいたる政治家・軍人・官僚などが所蔵していた日記・書簡・草稿などの私文書からなる。新居善太郎・有馬頼寧・斉藤実などの旧蔵資料のうち千葉県にかかわる資料である。	
(財)近現代12	千葉県沿海漁業協同組合資料	1290	県内	1950年から1993年にかけて安房郡千倉町に存在した千葉県沿海漁業協同組合の業務報告書・事業計画書、千葉県沖合及び県外での操業、米軍海上演習・汚水問題への対応に関する資料などからなる。	
(財)近現代13	匠瑳家文書	176	海匠	延喜式内小社老尾神社の神官を代々務めた匠瑳家に伝来した資料。享保～慶応年間の神道裁許状、明治初期の由緒書など神社に関する文書のほか、歩兵第二連隊に属して日清戦争に従軍した際の軍事郵便がある。	
(財)近現代14	藤乗家文書	202	長生	本小轡村の名主をつとめた藤乗家伝来の資料。幕末から明治初頭にかけての俳諧資料、日中戦争に従軍した際の日誌や軍事郵便、本小轡村や東郷村の村政資料などがある。	
(財)近現代15	メリーランド大学所蔵『ゴードン・W・プランゲ文庫』	340	県内	戦後GHQに勤務していたゴードン・W・プランゲ博士が、検閲後に保管されていた膨大な図書・新聞をメリーランド大学に持ち帰ったもので、そのうちの千葉県内で発行された雑誌66タイトル、新聞172タイトルである。	
(財)近現代16	朝日家文書	83	山武	山武郡蓮沼村村社五所神社・稲荷神社などの神官を代々務めた朝日家に伝来した資料。明治初期の神号改称願・神社明細帳・御請書や上総国神道事務分局・千葉県典講究文所の資料、朝日家の由緒書などがある。	
(財)近現代17	麻生家文書	36	夷隅	夷隅郡正立寺村名主を代々務めた麻生家に伝来した資料。同村では幕府から禁制とされた日蓮宗不受不施派の信仰が根強く残っており、明治2年に三宅島流罪を赦免された施王院日妙赦免の際の請書、再興運動の中心となった宣妙院日正の書簡などがある。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代18	石堂家文書	39	県内	朝夷郡石堂村の戸長等を務めた石堂家に伝来した資料。明治中期の『千葉新報』『絵入自由新聞』『房総新聞』のほかに嶺岡畜産株式会社の報告書がある。	
(財)近現代19	飯沼家文書	255	印旛	明治初期に印旛郡十倉村の戸長や十倉開墾会社の現地支配人を務めた飯沼家に伝来した十倉(旧高野牧)開墾関係の資料である。明治8年の下総牧羊場設置に係わる勅業寮牧羊御用野帳などがある。	
(財)近現代20	飯島家文書	121	香取	香取市佐原の飯島家所蔵の文書。昭和20年に南満州鉄道(満鉄)の鉄道部隊にはいり、終戦直後にソ連によってシベリアに抑留された資料や、昭和15年~20年頃の葉書・書簡などがある。	
(財)近現代21	浅野家文書	17	山武	山武郡鳴浜村白幡区長、鳴浜村村会議員などを歴任した浅野家の資料。明治16年12月の徴兵令改正の趣旨を説いた郡長からの諭達、「千葉県徴兵慰労義会設立主意書」、日中戦争期の出征兵見送りについての資料などからなる。	
(財)近現代22	『千葉県青年処女』	175	県内	千葉県連合青年団機関誌『千葉県青年処女』その前身である房総青年協会発行の『房総青年処女』である。当初誌面には教養・教訓的な論説、各地の青年団の活動のほか、読者投稿の文芸欄が設けられたが、しだいに国家主義的内容となった。	
(財)近現代23	山本家文書	1804	山武	山武郡源村極楽寺の山本家所蔵文書である。当主山本八三郎は、源村村長をつとめ、同村が「三大模範村」の一つに選出されるうえで大きな役割を果たした。明治41(1908)年1月から大正2(1913)年9月までの山本八三郎の「日誌」などが収められている。	
(財)近現代24	『千葉県農会報(愛土)』	378	県内	明治28年に設立された千葉県農会の機関誌『千葉県農会報』である。昭和2年8月の第178号から『愛土』と改題された。誌面には論説・農芸(農業技術)のほか、郡農会通信や読者投稿の文芸欄が設けられた。	一部マイクロフィルムでの提供
(財)近現代25	海発区有文書	73	安房	海発区に伝来した区有文書である。明治元年の房総知県事の申渡写、明治5年木更津県の地券御渡御規則写、大正12年9月の関東大震災で甚大な被害を受けた直後の復興の様子を示す大震災当時処理綴などがある。	
(財)近現代26	鵜澤家文書	31	海匝	須賀ハリストス正教会を設立した鵜澤家に伝来した文書である。明治23年自宅に教会を置き伝導を開始した鵜澤修の年譜や日誌、福音神学校誌、福音聖堂落成献物控、信徒台帳である銘度利加(メトリカ)、須賀正教史などがある。	
(財)近現代27	磯野家文書	25	長生	上埴生郡西村竹林区長や西村村会議員を務めた磯野家に伝来した文書である。明治末年から大正初年にかけての竹林区の総会評議員会記録・事務日誌・区用日誌のほか、町村連合会、衛生組合、神宮崇敬会、昭和4年の西村事務報告書などがある。	
(財)近現代28	豊田家文書	11	長生	明治45年に設立された茂原町の演芸場亀齢館の経営に関わった豊田家に伝来した文書である。大正4年から昭和2年にかけての館料出納簿・開館二十周年記念記録のほか、昭和21年の茂原町事務報告、昭和23年の藻原山聖跡保存会規約などがある。	
(財)近現代29	大田家文書	28	長生	長柄郡芦網村の自宅で私塾を開いた儒学者大和田和齋に関する文書である。明治11年の私学開業願、明治18年の私立芦村塾設置御伺書、明治19年の英学教授増加伺、明治20年の私立学校設置伺、大正10年の記念碑建設に関わる資料などがある。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代31	及川家文書	15	県外	大正～昭和初期の当主が平壤医学専門学校の校長を務めたことから及川家に伝来した植民地支配下の朝鮮における教育・医学関係資料である。学校長会議、朝鮮での精神総動員運動に関する資料のほか、満州建国10周年記念絵葉書などがある。	
(財)近現代32	最首家文書	314	県内	房総鉄道株式会社に関する資料で、鉄道敷設の免許状や開業免許状など各種許認可状を綴った簿冊がある。ほかには官報号外がある。	
(財)近現代33	岩波家文書	898	安房	安房郡丸村宮下区長や安房郡会議員などを務めた岩波家伝来の文書である。明治36年から40年の丸村役場からの通達類を綴った簿冊があり、日露戦争等に関する資料がある。安房郡会の文書綴には郡会議案や決議録等がある。	
(財)近現代34	下野家文書	23	山武	武射郡富田村名主や大富村役場吏員などを務めた下野家伝来の文書である。幕末維新期の「御一新記」、明治期の「小学校用留」のほか、「大正震災記」、「防空日誌」、軍事郵便などがある。	
(財)近現代35	『新千葉新聞』	189	県内	木更津市の新千葉新聞社が発行する2面建ての地域新聞である。昭和20年12月25日創刊。当初の週3日刊から昭和29年3月に日刊となり、現在も刊行されている。	
(財)近現代36	平館区有文書	189	安房	平館区に伝来した区有文書である。区内の漁業・農業・施設事業などの概要を毎年記録した「舞社記録簿」のほか、大正14年の震災復興関係資料、昭和5年の布達綴、平館漁業組合関係資料、千倉町矯風会会則などがある。	
(財)近現代38	鴨川市郷土資料館所蔵東条村役場文書	189	安房	安房郡東条村の役場文書の第1次公開分である。政治行政・財政・産業・教育・厚生・軍事・宗教など多方面にわたる県・群などからの通達類や村政の諸相を示す資料などからなる。	
(財)近現代39	久我家文書	189	山武	勝浦市墨名の久我家が採集した文書。幕末期から明治期にかけての山辺郡極楽寺村（東金市）に関する資料で、宮谷県からの廻達綴や、明治政府や千葉県からの布達綴のほか、郵便局関係綴や様々な願書・届け書などがある。	
(財)近現代40	伊藤家文書	189	夷隅	御宿尋常高等小学校や御宿実業補習学校の日誌をはじめとする教育関係資料のほか、租税割賦帳、海軍造兵学生採用願、漁村経済調査書、経済更生計画関係の資料などがある。	
(財)近現代41	国立公文書館つくば分館所蔵文書	189	県内	つくば分館は、平成10年つくば市の研究学園都市内に設置。戦後の千葉県に関する資料のうち、鉄道敷設、県道整備、新東京国際空港建設、戦後直後の食糧統制、モノレール事業などに関わるものを選定、複写したものである。	
(財)近現代42	国立公文書館所蔵官庁文書	189	県内	内閣や諸官庁が作成した公文書の中から、千葉県に関する資料を選定・複写したものである。主に鉄道関係、国道整備、公有水面埋立等の建設・運輸関係や、昭和天皇などの行幸啓、公職追放、自治体警察等の戦後直後の政治・経済関係のものがある。また、関東大震災、新東京国際空港建設、都市計画等に関わるものもある。	
(財)近現代43	国立公文書館所蔵『公文別録』	189	県外	「公文別録」は、明治元（1868）年から昭和22（1947）年にかけて、太政官や内閣が扱った公文書のうち、重要な機密事項や事件等に関する文書や書簡等を省庁別・年代別あるいは事件別に編集したものである。本資料は、その中から、地方巡察使復命書及び関東大震災関係のものを複写したものである。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代44	全国農業協同組合中央会協同組合図書資料センター所蔵文書	189	県内	同センターは、昭和54（1979）年に設立され、協同組合に関する図書や資料を統一的に収集・保存し、農協・漁業・生協ほか関係諸団体によって刊行された図書資料・逐次刊行物や、農林省から寄託された農業文庫等を所蔵。本資料は、その中から千葉県に関係するものを選定し、複写したもので『千葉県産業組合』『千葉県産業組合聯合会報』や農民歌人吉植庄亮著『お米談義』等がある。	
(財)近現代45	国立国会図書館所蔵文書	189	県内	本資料は、国会図書館所蔵の図書・資料の中から、千葉県関係記事を収集、複写したものである。主な資料として、『千葉県学事年報』や『千葉県赤痢病流行記事』『千葉県虎列刺病流行記事』といった明治期の教育・衛生関係の資料や、地方自治・労働運動・教育関係を中心に昭和20～50年代の各種専門雑誌・新聞がある。なお、同館憲政室資料は「(財)近現代10、11」で既に公開。	
(財)近現代46	国立国会図書館支部法務図書館所蔵文書	189	県内	法務図書館は、国立国会図書館の支部として法務省内に設置されている法律専門図書館である。本資料は、同館所蔵資料の中から、『経済月報』の千葉県関係記事を収集、複写したものである。『経済月報』は司法省刑事局が昭和16年7月から同19年9月にかけて発行したもので、国家総動員法の運用実態がうかがえる。	
(財)近現代47	国立国会図書館所蔵返還文書	189	県内	昭和20（1945）年8月の敗戦後、連合軍軍によって日本各地で接收され、1974年にアメリカから返還された文書。①旧内務省関係資料のうち千葉県警察部特高警察課作成の資料には、県内の警察署長から民心の動向、右翼・左翼運動、無産政党活動の動静等について知事に報告する書類が多数である。②昭和10年代前半に商工省が作成した地方工業化委員会議事録の要約もある。	
(財)近現代48	米国国立公文書館所蔵文書	189	県内	米国国立公文書館が所蔵する資料のうち、千葉県に関係する文書を選定して複写したものである。 RG（レコード・グループ）407（高級副官部文書）：米軍による日本上陸作戦関係資料、千葉県で占領行政にあたった米軍部隊・千葉軍政部・千葉民事部の占領活動報告、片貝高射砲射撃演習場で演習を行った米陸軍第8軍所属部隊の訓練・任務・人事等の活動報告が中心。 RG338（陸軍の作戦、戦術及び補給機関文書）：片貝高射砲射撃演習場で演習を行った第40高射砲旅団等とその隷下部隊の訓練・任務・人事等の活動報告のほか、千葉県で占領行政にあたった千葉軍政部・千葉県民事部の占領報告書もみられる。 RG38（海軍作戦部長室文書）・RG59（国務省文書）・RG80（海軍省文書）・RG94（高級副官部文書）・RG111（陸軍省通信将校校長室文書）・RG160（陸軍兵務部文書）・RG165（陸軍省参謀本部・専門部文書）・RG218（米統合参謀本部文書）・RG243（米国戦略爆撃調査団文書）：日本降伏のための軍事作戦計画、降伏後の復興・賠償政策に関する文書が中心であり、他に地勢調査、対日心理作戦文書、戦略爆撃報告、千葉県及び首都圏各地の写真などの資料がある。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代49	飯沼(喜)家文書	189	印旛	甲子正宗の商標で知られる印旛郡酒々井町の酒造会社飯沼本家の所蔵文書である。酒造業や酒造経営に関する資料が大多数を占めており、飯沼本家の酒造経営に関する資料のほか、当主飯沼喜一郎を中心に県内の有力な醸造家が清酒の通年醸造をめざして協同で設立した関東醸造株主会社の経営資料などが存在する。その他、喜一郎の父治右衛門時代の干鯛営業にかかわる資料や、喜一郎が酒々井町の長会議員や町長をつとめた関係で行政関係の資料も残されている。なお、飯沼本家所蔵文書については、千葉県史料研究財団が調査・整理を行い、目録として『千葉県近現代資料調査報告書 飯沼喜一郎家文書』（2001年）を刊行している。今回の公開文書は、その中から財団が重要な資料をマイクロ撮影をし、紙焼きしたものである。	
(財)近現代50	法政大学大原社会問題研究所所蔵文書	189	県内	戦前から戦後にかけての労働運動・農民運動・平和運動・基地反対闘争・女性問題・成田空港反対闘争等に関する資料のうち千葉県に関係する部分を複写したものである。	
(財)近現代51	成田山仏教図書館所蔵文書	189	県内	成田山仏教図書館は、財団法人成田山文化財団が運営する私立図書館である。明治34（1901）年に設立された千葉県最初の図書館で、仏教書をはじめ多分野にわたる図書などを所蔵している。本資料は、その中から、帝国在郷軍人会千葉支部の機関誌『さくら』や成田山新勝寺の機関紙『成田山だより』、また、『成田繁盛記』『千葉町案内』といった明治期の出版物などを複写、収集したものである。	
(財)近現代52	国立公文書館所蔵『公文類聚』	189	県内	「公文類聚」は、「太政類典」が明治15（1882）年に改称され、収録文書もより細かく分類されたものである。本資料は、その中から、千葉県関係の資料を選定し、複写したもので、千葉県と茨城県の県域変更に関するものなどがある。	
(財)近現代53	国立公文書館所蔵『公文雑纂』	189	県内	「公文雑纂」は、「公文類聚」以外の内閣の起案、または接受した文書を各省庁年代別に編集したものである。本資料は、その中から、千葉県関係の資料を選定し、複写したもので、都市計画や銚子築港などに関するものがある。	
(財)近現代54	国立公文書館所蔵『華族家記』	189	県内	「華族家記」は、旧藩主が明治政府に提出した各藩の幕末維新期の記録である。本資料は、その中から、松尾藩・太田資美と花房藩・西尾忠篤のものを複写したものである。	
(財)近現代55	鉄道博物館(旧交通博物館)所蔵文書	189	県内	交通博物館は、鉄道をはじめとする各種交通に関する資料の収集や展示を行っていた博物館である（2006年閉館）。鉄道省（院）や日本国有鉄道（国鉄）などの資料を収蔵していた。本資料は、その鉄道省（院）文書の中から、九十九里鉄道・銚子鉄道・南総鉄道・船橋鉄道・夷隅鉄道・総武鉄道・成田鉄道・成田急行電鉄・房総鉄道に関する資料を複写、収集したものである。これら資料は、現在は鉄道博物館（埼玉県さいたま市）において閲覧できる。	
(財)近現代56	加藤(重)家文書	189	長生	茂原市長谷の加藤家に伝存する文書である。明治初期の当主重恵氏が長柄郡長谷村（茂原市）戸長や第七大区三小区福戸長等を務めた関係で、明治初期における太政官からの布告・達、各省や木更津・千葉両県からの布達・達、大区扱所や小区扱所からの達などが系統的に保存されている。その他、第七・八大区会議の議事日誌や木更津・千葉両県が実施した育児政策に係る資料なども残されている。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代57	マッカーサー記念館所蔵文書	189	県内	RG3(南西太平洋総司令部文書)、RG4(米太平洋陸軍総司令部文書)、RG9(無線電報集)、RG22(ハロルド・イーストウッド文書)、RG23(チャールズ・ウィロビー文書)、RG36(スティーブン・チェンバリン文書)ほか雑多な資料からなる。対日戦終結から日本占領開始に至る時期の米軍の動向を示す資料である。	
(財)近現代58	『千葉県社会事業』『社会事業タイムス』『千葉県厚生時報』	189	県内	千葉県社会事業協会が発行した月刊の広報誌。『千葉県社会事業』を経て、『社会事業タイムス』が昭和4年4月から刊行され、昭和13年4月に『千葉県厚生時報』に改題された。県内の社会事業のほか、産業、移民、医療・保険などに関する時報や統計が掲載されている。同協会は県学務部社会課内に置かれ、会長は県知事が、副会長は県学務部長が務めた。	
(財)近現代59	『房総神祇』	189	県内	千葉県神社協会が発行した機関誌。神社協会や神職会の活動記事や神社・神道に関する論説などが掲載されている。同協会は県庁内に置かれ、総裁は県知事が、会長は県学務部長が務めた。	
(財)近現代60	印旛沼土地改良区文書	189	印旛	1953(昭和28)年に設立された印旛沼土地改良区が作成した文書で、理事会・役員会・総代会など各種会議の議事録のほか、印旛沼開発や土地改良、川崎製鉄の工業用水利用に関する文書がある。	
(財)近現代61	篠崎家文書	189	山武	九十九里青年会豊海分会文化部の機関誌『ふるさと』、俳句サークルの機関誌『はくとう』、俳句の作品集などがある。	
(財)近現代62	越川家文書	189	県内	戦前、銚子地域を中心に購読されていた『極東新聞』、戦後の千葉県内で最も早く復刊した地方紙のひとつである『東日本新聞』をはじめ、学術・文芸誌の『極東詩人』『極東』『郷土』がある。	
(財)近現代63	林家文書	189	長生	茂原市中善寺の林家に残された資料で、主に林邦美氏の日記、林氏が関係した戦前～戦後の農民運動・平和運動・日本共産党、青年団報、新聞記事、茂原市・茂原市議会、衆議院議員選挙などの資料からなる。また、同市の久我家に残された五郷村婦人会関係の資料も含まれる。	
(財)近現代64	須永家文書	189	安房	戦前から戦後にかけて鴨川文化協会の中心として活動していた原進一氏のノートである。文化運動に関する日記のほか、新聞・雑誌記事、書簡、文化行事のビラ、プログラム等が貼付されている。	
(財)近現代65	川名家文書	189	安房	大正から昭和にかけて安房郡主基村長をつとめた川名傳に関する資料である。役職就任にあたっての委嘱状、農村経済更生運動に関する川名傳の講演原稿、川名傳に関する新聞・雑誌記事切り抜きなどの資料がある。	
(財)近現代66	アメリカ海兵隊歴史資料センター所蔵文書	189	県内	米国海軍司令部参謀第3部(G-3)が作成した、第二次世界大戦中の米国海軍第四・第六海兵隊の活動を記録した文書である。同海兵隊による日本本土上陸作戦に至るまでの諸作戦、各地での戦闘の様子を伝える。手書きの関東平野上陸作戦図(房総半島富津岬、横須賀に上陸地点を記したもの)等がある。	
(財)近現代67	湯浅家文書	189	東葛飾	布瀨村の名主を代々つとめた湯浅家に伝来した文書群。湯浅家は近代以降、手賀村村長や学務委員などをつとめ、手賀沼水利組合や堤防組合に関する資料のほか、明治期の学校関係資料などもある。	

No.	文書名	点数	地区	概要	備考
(財)近現代68	安房神社文書	189	安房	旧官幣大社である安房神社に伝来した資料で、社務日誌や皇典講究所関係書類等がある。	
(財)近現代69	成田山霊光館所蔵文書	189	印旛	成田山新勝寺に伝来した資料。新勝寺内事課文書の他、成田山交道会の創立15周年誌、昭和22(1947)年の公津村会会議録などがある。	
(財)近現代70	成田山霊光館所蔵柏原家文書	189	県外	立憲国民党所属代議士として衆議院議員を四期にわたってつとめた柏原文太郎(1869~1936年)への大正・昭和期の書簡を中心とする資料群。大日本婦人会成田支部長をつとめた夫人安喜子の日記もある。	
(財)近現代71	君津市漁業資料館所蔵人見漁業協同組合関係文書	189	君津	君津郡にあった人見漁業協同組合に関する資料で、昭和戦前期の千葉県・水産業団体による施策や東京湾の水質保護に関する資料、戦時下の水産業統制に関する資料などがある。	
(財)近現代72	東京大学史料編纂所所蔵『大日本維新史料稿本』	189	県外	弘化3年(1846)から明治4年(1871)まで25年間の事件を年次順にまとめた史料集の稿本で、本資料はその中から明治元年4月~5月の部分を複写したものである。内容は戊辰戦争の各地域での戦闘記録、諸藩から新政府あてに提出された届書、神仏分離、官制改革等に関するものである。	コピー可・撮影不可
(財)近現代73	鴛田紀美家文書(藤田嗣治関係資料)	189	県外	市原市草刈の鴛田家に残された、画家藤田嗣治に関する文書群である。藤田嗣治による妻登美子(旧姓鴛田)宛ての書信が多くを占め、初めて渡仏の船中(大正2年)で認めたものから、第一次大戦下、一時的に渡英した頃(大正5年10月)までのものがある。	条件付閲覧、コピー・撮影不可
(財)近現代74	千葉県立中央博物館所蔵『万朝報』	189	県内	万朝報社が発行した『万朝報』のうち、千葉県立中央博物館所蔵分を財団法人千葉県史料研究財団が収集したものである。	
(財)近現代75	染谷勝彦家文書	189	東葛飾	鷲野谷村の名主を務めた当家伝来の文書群である。戸長・学区取締・医務取締などを歴任した染谷大太郎が作成・収受した文書がある。	
(財)自然誌01	航空写真	189	県内	県史掲載のために撮影された航空写真。九十九里平野、小櫃川中流域の蛇行流路、鴨川断層帯などの自然地形や竜角寺古墳群、椿新田、東京湾岸の埋立て地などの歴史的景観の写真である。	